

セミのぬけ殻から、セミの種類がわかるの

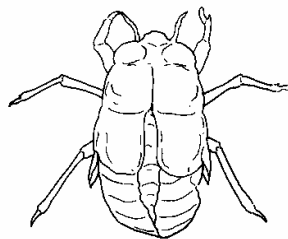
ぬけ殻の大きさは、セミの大きさと合っている

セミは、日本国内にいる代表的なものを比べてみても、体の大きさがずいぶんちがっています。いちばん大きいほうの種類では、関西から西の暖かい地方でよく見られるクマゼミの、体長60～65ミリメートル、700メートル以上の山で鳴き声を聞くハルゼミの、体長65～70ミリメートルなどがいます。小さいほうでは、エゾハルゼミの、体長38～43ミリメートル、ニイニゼミの、体長32～40ミリメートルなどになります。

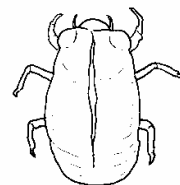
成虫のセミの大きさがちがうように、セミのぬけ殻も、大きいセミのものは大きく、小さいセミのものは、やはり小さいです。また、アブラゼミのように、成虫の色がこく、たくましい感じがするものは、ぬけ殻も茶色がこくて、たくましい感じがします。

ぬけ殻の前足や触角の節の様子で、セミの種類がわかる

セミの幼虫は、土の中で、前足でトンネルをほって生活をしています。この前足の内側に、大小の歯のようなでこぼこがあります。専門家は、このでこぼこの形や数などで、セミのぬけ殻から、セミの種類を見分けることができます。また、アブラゼミの触角は第3節だけがほかの節より長いが、ミンミンゼミはほかと同じ長さなので、両方を区別できます。図鑑などに出ているセミのぬけ殻と見比べるだけでも、アブラゼミやエゾゼミ、ニイニゼミなどは、見当がつかます。とくにニイニゼミは、必ず殻全体がどろだらけなので、わかりやすいです。（監修・中山周平）



アブラゼミ



ニイニゼミ

セミのぬけ殻

